

葛西臨海・海浜公園の課題

日本野鳥の会東京幹事 葛西臨海公園担当 飯田陳也



多くの皆さんのご支援をいただき、葛西臨海公園はオリンピック・カヌー競技場建設予定から外れ、隣接する公有地で開催されることになって1年半が経過しました。その後、各地から、自然保護団体の要求は無視されることが多い中、よく要望通り通ったと喜びと激励の声が届きました。

これを実現する力が何処に有ったのか、私なりに羅列すると、①立ち上がりがあった(2008年4月の計画発覚時から取組み開始) ②地元(東渚鳥類園友の会)、建設技術士会との交流・支持 ③〔公財〕日本野鳥の会と連携することによって、野鳥の会東京の会員3,000人から全国50,000人の取組へ広がった ④18,360筆の個人署名と135団体の支持署名 ⑤臨海公園が造られた歴史に目を向けた ⑥野鳥以外の生き物にも目を向けた ⑦IOCへアピールが届いた ⑧マスコミが積極的に取り上げた ⑨知事が代わったなどが、私たちの取組みを後押ししてくれたと感じています。今回の活動を早々にまとめ、今後の行動に生かしたいと思っています。

お礼の挨拶と中間報告をさせていただくと、「その件はもう解決したんでしょ！」と言われることがあります。一昨年12月「開催地は臨海公園の外に」と大きく前進した東京都との交渉で、私たちは都の決断を大きく評価すると同時に、都側に向けて残されている問題としていくつかの宿題を提起しました。①後世に負担を残さないための検討を十分に ②海水の環境に淡水が大量に流入するが、水管理を適切に ③少年野球場の替わりを提示してほしいなど。

今年2月18日に久しぶりに開催された11回目の対都交渉で、都側はカヌー関連問題が解決した後は、各競技会場の見直しが広がり、忙しくて話し合いが持てなかったと詫びるだけで、宿題には何も答えてくれませんでした。宿題に前進がないまま、今年5月に仮設計が出来上がりますが、この仮設計で宿題がどう解決されたのか、しっかり注目して行きたいと思っています。

一方、懸念する課題が放置されたまま、賑やかな動きが目立っています。①西なぎさの海水浴場推進(昨年試行・今年から本稼働)②西なぎさにドッグラン開設の動き ③駅前第一駐車場に5階建て600台の立体駐車場建設計画(ボーリング調査済・公示)など、どれも環境を悪化しかねない物ばかりです。

今年3月の「えどがわ区民ニュース」の中で江戸川区の多田正見区長は、4年後の東京オリンピックのことに触れ、「来日されるたくさんの方の外国の方は、東京が大きな街であることは知っているだろうが、海に面して緑が多く、野鳥もたくさんいるこんな素敵な一面を見てほしい」と言われた。この方向こそ、私たちが諸手を挙げて賛成できる方向ではないでしょうか。

今、環境省が進めている、2018年までに10か所のラムサール湿地登録候補地探しに「葛西」を押し上げたいと思っています。これを進めるため関係各方面と協議を開始しました。

関係者による勉強会、多くの市民を対象にしたシンポジウムの企画などで世論を喚起して行きます。成功のために残されている時間は少なく、今年・来年が勝負時です。この運動に、皆さんの一層のお力添えをお願いしたいと思っています。